

V. 森林・山村の多面的機能発揮に対する効果の評価手法の検討

1. 検討の概要

森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業は開始から6年が経過し、全国的に地域住民等による森林の保全管理活動等が推進されている。平成29年度からはモニタリング調査によって交付金による森林整備の成果を確認しているが、本事業による活動は山村地域のコミュニティの活性化や生物多様性の保全など、森林整備以外の多面的機能の発揮にも大きく貢献しているところであり、これらの効果を客観的に評価することが求められる。

一方で、個々の活動組織が継続的に活動に取り組むためには、自組織の目標管理やモチベーションの向上等が必要となっており、そのためにも様々な活動成果を客観的に評価し、それを理解した上で活動に取り組むことが必要とされている。

本交付金事業による活動の環境・社会へ与える影響を可視化することで、事業への理解促進や更なる取組拡大につなげることを目的に、活動による効果（社会的価値）を可視化する手法の検討等を行った。

2. 検討結果の報告

（1）活動による効果の可視化に向けたプロセス

今後の本交付金事業による活動の効果の可視化に向けて、今年度は手法の検討・整理を行った。具体的な実施内容は以下のとおり。

- 本評価実施に参考となる評価手法の収集
- 本評価実施に参考となる参考単価の収集
- 「森林・山村多面的機能発揮に対する効果チェックシート」素案の作成
- 有識者、活動組織からの意見聴取

（2）個別の活動組織に対する評価の試行

活動組織3団体に対して評価を試行した。具体的な実施内容は以下のとおり。

- 活動組織へのヒアリングから活動量を把握
- 活動量から上記の評価手法を用いて取組による効果を試算
- 今後の方向性（案）を取りまとめ

3.今年度の実施内容詳細

(1) 評価実施に向けたプロセス検討

(2) 本評価実施に参考となる関連する評価手法の収集

官公庁や民間事業者による森林・山村保全活動（事業）の主な評価事例は以下のとおりである。

- ・ 林野庁 林野公共事業における事業評価マニュアル（以下、評価マニュアル）
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/sekou/hyouka/manual.html>
- ・ 林野庁 法人の森制度 環境貢献度評価
http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/kokumin_san_ka/hojin_mori/pdf/kankyoku_koukendo.pdf
- ・ 環境省（2016） 里地里山の生物多様性の経済的価値の評価
<https://www.env.go.jp/press/102332.html>
- ・ 株式会社公共経営・社会戦略研究所（2016） SAVE JAPAN プロジェクト 2015 SROI 評価
<http://koshaken.pmssi.co.jp/upfile/savejapan2015report.pdf>

(3) 評価実施に参考となる参考単価の収集

公共事業評価及び社会的インパクト評価の枠組みを用いることで、活動効果の定量化を検討した。

①.公共事業評価（林野公共事業事業評価マニュアル）における参考単価

評価マニュアルでは、森林整備による便益の評価手法を定めている。

評価マニュアルにある主な便益の評価手法とその単価の目安は以下のとおりである。

図表 57 森林整備に係る主な便益の評価方法とその単価

便益 (評価手法)	活動量	森林整備による 効果	単位当たり 便益
水源涵養の洪水防止 (代替法)	面積 (ha)	流出係数の低下 (要整備森林：整備済み森林)	92 千円/ha/年 (注1)
水源涵養の流域貯水 (代替法)	面積 (ha)	貯留率の増大 (要整備森林：整備済み森林)	42 千円/ha/年 (注2)
水源涵養の水質浄化 (代替法)	面積 (ha)	貯留率の増大 (要整備森林：整備済み森林)	101 千円/ha/年 (注3)
山地保全の土砂流出 防止 (代替法)	面積 (ha)	流出土砂量の減少 (荒廃地：整備済み森林)	77 千円/ha/年 (注4)
炭素固定便益 (市場法)	成長量 (m ³)	二酸化炭素の吸収 (スギ、20 年生以上)	4.8 千円/ m ³ /年 (注5)

(資料) 林野庁 (2002) 林野公共事業における事前評価マニュアル (参考単価表)、平成 14 年 3 月

(注 1) 水源涵養の洪水防止は、以下の条件の場合の値となる。

- ・治水ダムの単位流量調節量当たりの年間減価償却費 ($4190 \text{ 千円}/\text{m}^3/\text{sec}$) 出典：「ダム年鑑 2018」
- ・適正な間伐実施前の流出係数 (0.55：浸透能小・平地・要整備森林(疎林)) 出典：「治山設計」(山口伊佐夫著, 1979)
- ・適正な間伐実施後、T年経過後の流出係数 (0.45：浸透能小・平地・整備済森林) 出典：「治山設計」(山口伊佐夫著, 1979)
- ・適正な間伐実施後、流出係数が安定するのに必要な年数 (10 年)
- ・地域の 100 年確率時雨量 (仮で 79mm/h)

(注 2) 水源涵養の流域貯水は、以下の条件の場合の値となる。

- ・地域の年間平均降雨量 (仮で $2,500\text{mm}/\text{年}$)
- ・適正な間伐実施前の貯留率 (0.51) 出典：「森林の間伐と水収支」(近嵐ら、1987)
- ・適正な間伐実施後、T年経過後の貯留率 (0.56) 出典：「森林の間伐と水収支」(近嵐ら、1987)
- ・適正な間伐実施後、貯留率が安定するのに必要な年数 (10 年)
- ・開発流量当りの利水ダム年間減価償却費 ($1,058,000 \text{ 千円}/\text{m}^3/\text{S}$) 出典：「ダム年鑑 2018」

(注 3) 水源涵養の水質浄化は、以下の条件の場合の値となる。

- ・全貯留量 (Q_x) のうち生活用水使用相当量 (仮で 0.10 億立方)
- ・全貯留量 (Q_y) - Q_x (仮で 0.36 億立方)
- ・年間平均降雨量 (仮で $2,500\text{mm}/\text{年}$)
- ・適正な間伐実施後、貯留率が安定するのに必要な年数 (10 年)
- ・適正な間伐実施前の貯留率 (0.51) 出典：「森林の間伐と水収支」(近嵐ら、1987)
- ・適正な間伐実施後、T年経過後の貯留率 (0.56) 出典：「森林の間伐と水収支」(近嵐ら、1987)
- ・地域の単位当たりの上水道供給単価 (U_x) (仮で $125.6 \text{ 円}/\text{m}^3$)
- ・単位当たりの雨水浄化費 (U_y) ($68.6 \text{ 円}/\text{m}^3$) 出典：「地球環境・人間生活にかかる農業及び森林の多面的な機能の評価に関する調査研究報告書」(三菱総合研究所, H13.11)「雨水利用ハンドブック」
- ・単位当たりの水質浄化費 (U_x と U_y を用いて Q_x と Q_y で比例按分して算出) (上記の場合、 $80.99 \text{ 円}/\text{m}^3$)

(注 4) 山地保全の土砂流出防止は、以下の条件の場合の値となる。

- ・下流のダムに堆積した 1 m^3 の土砂を除去するコスト ($4,095 \text{ 円}/\text{m}^3$) 出典：(一社)ダム水源地土砂対策技術研究会「ダム堆積対策工法の概要」2014、国土交通省「平成 30 年度施工パッケージ型積算方式標準単価表」
- ・適正な間伐実施前における 1 ha 当りの年間浸食土砂量(荒廃地等： 20m^3) 出典：「治山全体調査の考え方進め方」「森林の公益的機能に関する文献要約集」「森林水文」
- ・適正な間伐実施後における 1 ha 当りの年間浸食土砂量(整備済森林 1.3m^3) 出典：「治山全体調査の考え方進め方」「森林の公益的機能に関する文献要約集」「森林水文」
- ・適正な間伐実施後、年間流出土砂量が安定するのに必要な年数 (10 年)

(注 5) 炭素固定便益は、以下のスギの成長量 1m^3 当たりの値となる。

- ・二酸化炭素に関する原単位 ($5,500\text{円}/\text{CO}_2\text{-ton}$) 出典：東京都層量削減義務による排出量取引制度における仲値(アーガス・メディア・リミテッド(Argus Media Limited)による平成 27 年 10 月 23 日査定価格)
- ・容積密度(スギ： $0.314 \text{ t}/\text{m}^3$) 以下、出典：「日本国温室効果ガスインベントリ報告書」(2018 年 4 月)温室効果ガスインベントリオフィス(GIO)編
- ・バイオマス拡大係数(地上部バイオマス量/幹バイオマス量)(スギ：1.23)
- ・地上部に対する地下部の比率(地下部バイオマス量/地上部バイオマス量)(スギ：0.25)
- ・植物中の炭素含有率(スギ：0.51)

②.社会的インパクト評価における参考単価

社会的インパクト評価では、活動に投入される時間、人数、費用等から、活動による効果を算定した。環境保全活動において発現し得る主な社会的便益の算定方法とその単価の目安は以下のとおりである。

図表 58 環境保全活動に係る主な便益の算定方法とその単価

便益（評価手法）	活動量	活動による効果	原単位
構成員（活動参加者）の意識向上 （代替費用法）	人数 時間	スタッフが森林保全効果のある活動を実施 （参加者の活動時間総数で評価）	造園工の労務単価：2,050 円/時間/人
活動組織の取組イメージ向上（代替費用法）	回数	活動の認知向上 （web掲載回数で評価）	web 広告費： 300 千円/回
	回数	活動の認知向上 （新聞掲載数で評価）	新聞広告費単価： 1.2～13 千円
	回数	活動の認知向上 （TV 等放送回数で評価）	TV 等放送単価： 2.4～432 千円
市民（中学生以上）の環境意識や森林・山村への理解向上（機会費用法）	人数 時間	イベント参加者が森林・山村の体験や知識を学習 （参加者の活動時間総数で評価）	平均賃金：1,957.9 円/時間/人
市民（中学生未満）の環境意識や森林・山村への理解向上（代替費用法）	人数	イベント参加者が森林・山村の体験や環境知識を学習 （参加者の活動時間総数で評価）	自然活動の子供の費用：2,216 円/人

（資料）「SAVE JAPAN プロジェクト 2015 SROI 評価」を基に三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング㈱作成

(4) 「森林・山村多面的機能発揮に対する効果チェックシート」素案の作成

「森林・山村多面的機能発揮に対する効果チェックシート（以下、「効果チェックシート」という。）」素案を別紙のとおり作成した。第2回検討委員会を踏まえ、効果チェックシートを以下の方針の基に修正した。

- 活動組織用の「森林・山村多面的機能発揮に対する効果チェックシート」、事務局用の「活動組織の活動効果算定シート（以下、「効果算定シート」という。）」を分けて作成
- 効果チェックシートには効果算定の元となる数値情報を記入
- 効果チェック欄の横展開には、活動組織間の協力関係についての記載を追加
- 効果算定シートの「地域貢献（景観）―良好な景観によるレクリエーションの貢献」については、算定の元となる森林利用者数の把握が困難かつ、イベント参加人数との二重計上になる可能性があるため、算定項目から削除

(5) 有識者、活動組織からの意見聴取

効果チェックシート素案、効果の算定方法について、検討委員会において有識者から聴取した意見、ヒアリングにおいて活動組織から聴取した主な意見内容は以下のとおり。なお、活動組織からの意見についてはヒアリング実施後とりまとめた。

図表 59 効果チェックシート素案に関する有識者からの意見内容

項目	意見内容
チェックシートの活用法について	30年度の活動を31年度に集計するということを確認した上で、スケジューリング案を第3回委員会までに事務局で詰めていただきたい。
チェックシートの項目内容について	<p>チェックシートについて、横展開の欄に、活動組織間の交流を追加することはできるか検証してほしい。</p> <p>企業や自治体、他の活動組織の項目について、「増えた」ではなく「協力関係がある」としてほしい。</p>
活動量の記入について	<p>今回、チェックシートを出してもらい、事業評価等に対する回答を作るための基礎データであるとして書いて出すのもありかと思う。</p> <p>評価が悪いからといって、活動の内容が悪いと判断するものではないことは明記する必要がある。</p>

図表 60 効果算定方法に関する有識者からの主な意見内容

項目	意見内容
効果算定の意義、活用目的について	活動を評価することは、自己評価をすることで自己肯定感につなげることと、事業継続のために社会的認知を広げる2つの意味がある。
	チェックシート案を用いることで各活動組織が自ら活動の価値について評価できることをお知らせした上で、別途事務局側で計算を行い事業全体のB/Cを出せば良い。
	モニタリングを行う上で数値化は重要である。自分たちの活動の価値がわかるような数字を作ってもらいたい。
	①～⑭の数字を自分たちで確認し、次の年にどれだけ変化したか確認するだけでも、活動を客観的に見る良い機会であるように思う。
効果算定の実施プロセスについて	活動組織に評価させるとなると、活動組織の提出書類が多くなり相当負担が増えることになる。協議会としては、活動組織から出されたものをまとめることはできるため、最低限必要なものを提出していただく方針としたい。
	活動組織の負担を考え、極力簡易にする。平均参加人数や総人数を出すことで、自分たちも把握することは重要なことである。その程度にして、その数字を基にこちらで計算できる形にする。
使用する原単位について	鳥獣被害低減の評価額が0.188円/haとあったが、納税者全体の評価額としてha当たり1,102万円となるような考え方も有り得る。農林水産省の類似事業である大規模緩衝帯整備導入では1ha当たり48万円として試算されているため、参考としてほしい。
	イメージ向上に関して、テレビや新聞のコストの方が高い印象があるため、確認をお願いしたい。
	保健休養が1人100円となっているが、マウンテンバイクやトレイルランニング等、フィールドとして整備されることも考慮に入れて試算してほしい。
	希少植物の保護については、吉田謙太郎先生の論文によるコンジョイント分析を用いると、1ha・1種当たり74万2千円となり、その他の里山の指標種は1ha当たり7万円となる。
	神奈川県や東京都の活動を見ると、整備した緑地空間を都市緑地として市民に楽しんでもいただけるような活動と代替することが可能ではないか。
収集する数値情報について	森林の利用者数増加について、過大にならないためには、イベント参加人数と限定するほうが良い。

(6) 個別の活動組織に対する評価の試行

①.評価を試行する活動組織の選定

協議会から優良事例として推薦を受けた活動組織のうち、活動タイプ・特徴を踏まえ、以下の3つの活動組織に評価を試行することとした。

図表 61 評価を試行する活動組織一覧

団体名	構成員・活動概要	特徴
(一社) もりびと	30～70代、様々な職種の移住者、地元・近隣住民等で構成されている。荒廃した人工林（拡大造林地）や薪炭林の整備に取り組んでいる。整備した里山を活用し、親子向けの昆虫調査や木こり体験等、地域交流活性化を図っている。千葉大学と連携した里山整備事業の実績がある。	都市近郊の里山林の整備・活用 地域内外の交流活性化
西根森づくりの会	地域住民26人、他地区住民8人の34名で構成されている。構成員に自営業者が多いため、チェーンソー講習会を実施している。利用が低下した共有地を、共同組織で管理できる体制を作り、枯損木伐採、下刈、間伐等を行い、間伐材やきのこのほだ木の販売にも取り組む。市内小学校や地区内外の住民に対してキノコの植菌体験を実施している。	地域住民主体の共有林 共同管理
フォレストセーバー「正人どんの郷」	地域住民を中心とした31人の団体であり、会社員や大工、農業、事務職等様々な職種で構成されている。荒廃した森林・竹林整備や遊歩道設置を行っている。活動林にてレベル別のチェーンソー講習会や伐採安全講習を実施している。除去した竹材（竹粉）の有効活用と販売を実施している。炭作り体験、野鳥観察会等を開催し、子供が遊べる環境づくりを行っている。	地域住民中心の活動 林産物（竹材含む）の有効活用・販売

②.活動組織に対する効果チェックシートへの意見聴取

評価を試行する3つの活動組織に対して、効果チェックシート素案の記入を依頼し、効果チェックシートの活用可能性、記入量、及び項目の内容について意見を聴取した。

1) 効果チェックシートの活用可能性

「効果チェックシートは、活動組織の活動の変化・効果を客観的に把握したり活動の目標管理を行ったりする上で活用できると思うか」と選択式で質問し、その理由を記述式で質問した。結果は次のとおり。

図表 62 効果チェックシートの活用可能性

選択肢	回答数 (n=3)	その理由
活用できると 思う	1 団体	・ 活動内容と目的を部外者の立場から客観的、多角的に見る視点をもらえる。
活用できると 思わない	0 団体	－
どちらともい えない	2 団体	・ そこまで客観的に分析できるかわからない。 ・ 効果のチェック結果を活用できるかわからない。

2) 効果チェックシートの記入量

「効果チェックシートの記入量は適切だと思うか」と選択式で質問し、その理由を記述式で質問した。結果は次のとおり。

図表 63 効果チェックシートの記入量

選択肢	回答数 (n=3)	その理由
とても多い	0 団体	－
やや多い	0 団体	－
適切である	2 団体	・ これくらいの質問がなければ理解できないと思う。 ・ 特になし。
やや少ない	1 団体	・ 記入するには、分量が少ない方が良いが、あまり少なくなると活動組織によっては、活動を評価できなくなる恐れがあるので、多様な観点から評価できるようにある程度の分量が必要と思われる。
とても少ない	0 団体	－

3) 効果チェックシートの項目の内容

「効果チェックシートの5大項目（全25項目）の内容は、貴組織の活動の変化・効果を客観的に把握するうえで、適切だと思うか」と選択式で質問し、その理由を記述式で質問した。結果は次のとおり。

図表 64 効果チェックシートの項目の内容

選択肢	回答数 (n=3)	その理由
適切だと思う	1 団体	・ これくらいの質問がなければ理解できないと思う。
どちらともいえない	2 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「活動の広がり（横展開）」について、当組織は集落の有志を中心とした組織であり、集落外の参加だけでなく集落内の会員以外の理解や活動参加も重要と考えており、そのようなチェック項目があってもよい。また、「活動の持続性（自立性）」について、活動組織が継続的に森林整備を行うには、森林経営計画を樹立し、各種制度を活用していくことが不可欠と思われることから、そのように発展することの評価項目があっても良いのではないか。そのほか、「地域貢献（その他）」の項目は、その実効性や成果の確認が非常に困難と思われる。 ・ そこまで分析することが必要なかわからない。
適切だと思わない	0 団体	—

③.活動組織へのヒアリングから活動量を把握

各活動組織について、以下の活動量についてヒアリングを実施した。

図表 65 活動量に関するヒアリング内容

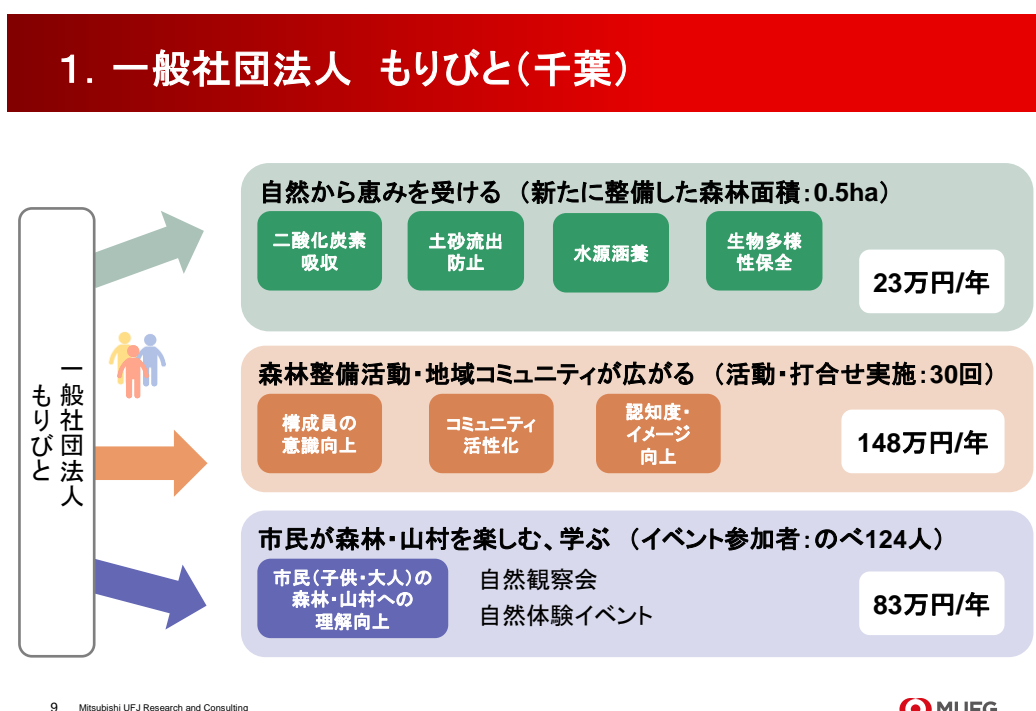
項目	ヒアリング内容
人の変化	<p>①交付金による活動の平均参加人数 約 人／回 (森林整備等の活動における、構成員の参加人数)</p> <p>②交付金による活動の平均時間 時間／回 (森林整備等の活動の準備・片付け時間を含む)</p> <p>③交付金による活動の年間回数 回 (森林整備等の活動回数)</p> <p>④自団体主催の活動（イベント等）がメディアで取り上げられた回数 新聞 回 Web 回 テレビ 回</p> <p>⑤自団体が主催する環境教育・自然環境イベントへの年間参加人数 15歳未満 約 人 15歳以上 約 人 (参加する一般市民のほか、構成員以外の運営協力者がいる場合はその人数も含む)</p> <p>⑥自団体が主催する環境教育・自然環境イベントへの参加者の平均参加 (滞在) 時間 約 時間</p>
土地利用の変化	<p>⑦今年度年度整備した森林のタイプ別面積（広葉樹林、針葉樹林、竹林） 広葉樹林 ha 針葉樹林 ha 竹林 ha その他 () ha</p>

④.活動量を試算

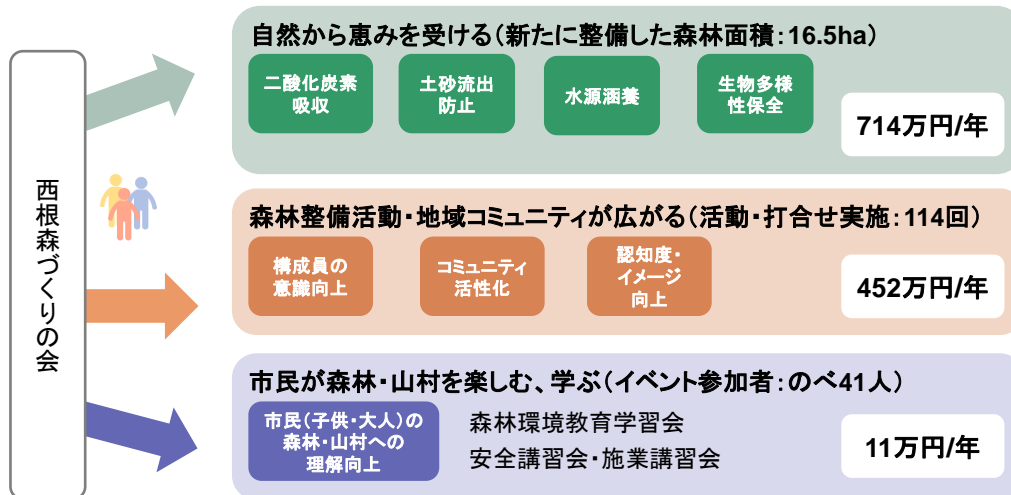
「活動組織の活動効果算定シート」を用いて、活動量から活動効果を整理した。効果算定過程の詳細は図表 66 のとおり。各活動組織において、SROI（社会的投資収益率）は 2.0 を超えており、交付金規模（整備面積規模）に応じて、妥当な効果が発揮されているといえる。

なお、「市民（子供・大人）の森林・山村への理解向上」効果については、交付金外で実施する活動組織主催のイベントも含まれていることに留意する。また、効果算定に当たって対象となる整備面積は、計画書に記載されている「今年度、長期にわたり手入れをしていなかったと考えられる里山林を整備した面積」を参照している。「二酸化炭素吸収」効果については、手入れをしなかった場合は森林成長量を 0 と便宜的にみなして効果を算定している。

図表 66 活動組織の効果算定結果



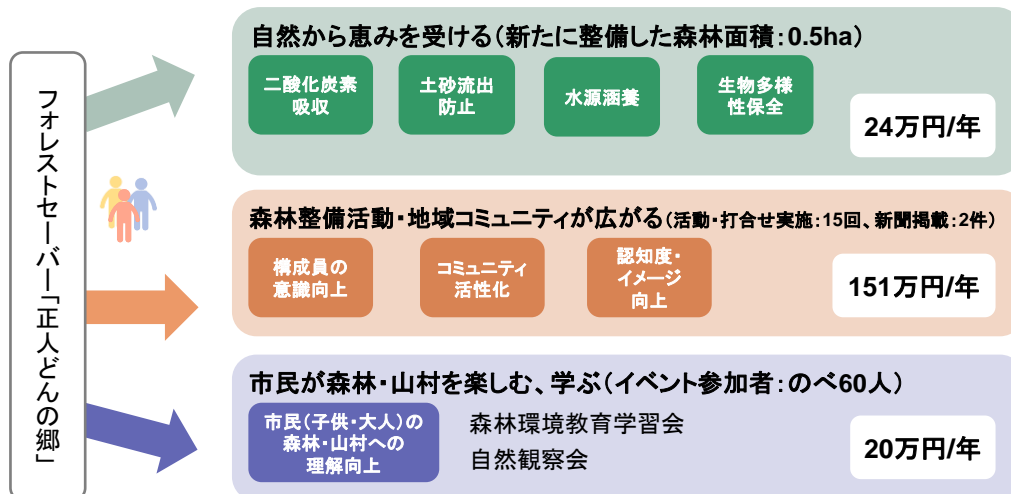
2. 西根森づくりの会（山形）



10 Mitsubishi UFJ Research and Consulting



3. フォレストセーバー「正人どんの郷」（福岡）



11 Mitsubishi UFJ Research and Consulting



(7) 今後の方向性（案）

①.評価実施に当たっての必要事項及び課題の整理

有識者の意見及び活動組織3団体への評価施行結果を踏まえて、次年度以降、本交付金事業による活動による効果の可視化に向けて、評価実施に当たっての必要事項、課題を以下のとおり整理した。

図表 67 評価実施に当たっての必要事項

実施年度	必要事項
平成 30 年度	活動組織 3 団体への評価の試行 効果チェックシート素案の作成 今年度の試算結果の取りまとめ
平成 31 年度	効果チェックシートの活用方法、内容の確定 評価結果活用方法の決定（林野庁の内部資料のみとするか、協議会へのフィードバックも行うかどうか） 評価実施対象の決定（サンプル調査とするか全数調査とするか） 評価算定実施者の決定（評価検証事業受託者か協議会か） 活動組織への配布・集計方法の決定 協議会への評価実施の周知・説明、意見集約 活動組織への効果チェックシート配布 効果チェックシート集約 チェックシートの集計・効果算定 検討委員での算定結果の確認・精査 行政事業レビューシートへの反映

図表 68 評価試行で分かった主な課題

主な課題
<p>【算定上の課題】</p> <p>○当事業の評価で使用する原単位の精査が必要 （当事業の森林整備に対する評価の原単位として妥当かどうか）</p> <p>○算定した便益の足し合わせができるもの、そうでないものの区別・整理が必要 （評価する便益が二重計上となっていないかどうか）</p> <p>【評価実施上の課題】</p> <p>○効果算定に当たっては、活動に関する基礎情報（参加人数・時間、広報実績）の記録と、各都道府県協議会を通じた情報提供が必要不可欠</p> <p>○評価に当たっての情報収集・算定作業において一定の費用・人員がかかる</p> <p>○評価手法の標準化に向けた合意形成が必要</p>

②.効果チェックシート素案の作成

森林・山村の多面的機能の発揮に対する効果を把握するためのチェックシート（案）について、昨年の検討委員会で議論の上整理したチェックシート（案）に一部修正を加えるなどして、活動の変化・成果の確認や目標達成状況を記述するチェックシートを作成した（図表 69 参照）。また、今年度の検討状況を踏まえて、活動の変化・成果を数値化（可視化）するチェックシートを作成した（図表 70 参照）。

図表 69 森林・山村多面的機能発揮に対する活動の変化・成果を確認するチェックシート(案)

【活動組織用】森林・山村多面的機能発揮に対する効果チェックシート（案）

活動組織名				チェック数 合計	
対象森林 所在地		都道 府県		市区 町村	交付金取得 () 年目
活動タイプ	<input type="checkbox"/> 里山林保全 <input type="checkbox"/> 竹林整備 <input type="checkbox"/> 森林資源利用 <input type="checkbox"/> 教育・研修				
活動目標					

1. 活動の変化・成果の確認

該当する項目に全てチェックを入れてください

項目	効果	チェック数
活動の広がり (横展開)	<input type="checkbox"/> 本年度に活動組織の構成員数が増加した	
	<input type="checkbox"/> 本年度に幅広い年齢層が協力して活動を行った	
	<input type="checkbox"/> 本年度に新聞や雑誌、広報誌などで活動を紹介された	
	<input type="checkbox"/> 本年度に他団体（活動団体、企業、自治体等）との協力関係がうまれた	
	<input type="checkbox"/> 本年度に外部（異なる集落や都市）の住民も森林整備活動に参加した	
活動の持続性 (自立性)	<input type="checkbox"/> 構成員が森林整備のための技術や安全管理の資格を取得した	
	<input type="checkbox"/> 森林整備のための機材や道具を使用できる構成員数が増えた	
	<input type="checkbox"/> 森林整備のために利用可能な本交付金以外の資金が増えた	
	<input type="checkbox"/> 若い世代（40歳未満）が参加しており、長期的な活動が可能である	
	<input type="checkbox"/> 本交付金終了後に森林整備活動を継続できる見込みがある	
地域貢献 (景観)	<input type="checkbox"/> 対象森林が明るくなり、見通しが良くなった	
	<input type="checkbox"/> 活動組織の構成員以外から景観が良くなったと言われるようになった	
	<input type="checkbox"/> 対象森林や周辺で不法投棄されるゴミの量が減った	
	<input type="checkbox"/> 対象森林が、観光資源としても利用できるようになり、来訪者数が増えた	
	<input type="checkbox"/> 在来種や歴史性を考慮した地域ならではの景観を守っている	
地域貢献 (文化・教育)	<input type="checkbox"/> 対象森林が、地域の憩いの場として活用されている	
	<input type="checkbox"/> 対象森林が、地域の子供たちの自然体験活動や学習・教育の場となっている	
	<input type="checkbox"/> 地域の幼稚園、保育園、小中学校のいずれかと協力関係にある	
	<input type="checkbox"/> 対象森林から得られた資源を伝統工芸品づくりに活用した	
	<input type="checkbox"/> 本年度に伝統文化の維持や郷土食づくりに貢献する活動を行った	
地域貢献 (その他)	<input type="checkbox"/> 交付金取得前に比べて鳥獣被害が軽減された（野生鳥獣の出没・侵入が減った）	
	<input type="checkbox"/> 本年度に地域の農業と連携した活動を行った	
	<input type="checkbox"/> 交付金取得前に比べて希少動植物の保護や生物多様性の保全に貢献している	
	<input type="checkbox"/> 土砂流出が軽減されるなど自然災害の防止に役立った	
	<input type="checkbox"/> 特産品の開発や地域の雇用創出など地域経済の活性化に貢献している	

2. 活動の自慢できること、目標達成状況

<p>本交付金を取得した活動による成果あるいは効果として目指していることのうち、特に自慢したいと考えていることについて、自由記述欄に記入してください。</p> <p>その上で、その自慢したいことについて、交付金取得期間中に達成したいと考える目標に対し、今年度時点での進捗状況の一つだけチェックしてください。</p>				
自慢できること (自由記述)				
	進展状況	<input type="checkbox"/>	目指す目標は達成された（進捗状況は 100%以上）	
		<input type="checkbox"/>	目標達成に向けた進捗状況は 75%～99%	
		<input type="checkbox"/>	目標達成に向けた進捗状況は 50%～75%	
		<input type="checkbox"/>	目標達成に向けた進捗状況は 25%～49%	
		<input type="checkbox"/>	目標達成に向けた進捗状況は 25%未満	
		<input type="checkbox"/>	特に目標としていることはない	

図表 70 森林・山村多面的機能発揮に対する活動の変化・成果を数字化するチェックシート(案)

活動の変化・成果の数字化 (平成 30 年度の活動実績についてお答えください)

No	項目	基礎情報	内容詳細	
1	交付金による 森林整備活動 について	活動の平均参加人数 約 _____ 人/回 (構成員の参加人数) 活動の平均時間 _____ 時間/回 (準備・片付け時間も含む) 活動の年間回数 _____ 回	活動タイプ: _____ 活動内容: _____	
2		活動の平均参加人数 約 _____ 人/回 (構成員の参加人数) 活動の平均時間 _____ 時間/回 (準備・片付け時間も含む) 活動の年間回数 _____ 回	活動タイプ: _____ 活動内容: _____	
3		活動の平均参加人数 約 _____ 人/回 (構成員の参加人数) 活動の平均時間 _____ 時間/回 (準備・片付け時間も含む) 活動の年間回数 _____ 回	活動タイプ: _____ 活動内容: _____	
4	活動に係る打 合せについて	打合せの平均参加人数 約 _____ 人/回 (構成員の参加人数) 打合せの平均時間 _____ 時間/回 打合せの年間回数 _____ 回	活動についての詳細な打合せ	
5	貴組織や活動 に関するメデ ィアでの紹介 について	新聞・雑誌掲載回数 _____ 回 (内訳) ①新聞・雑誌名 _____ 回 ②新聞・雑誌名 _____ 回	※紙面のコピー等を添付	
6		テレビ掲載時間 約 _____ 分 (内訳) ①番組名 _____ 約 _____ 分 ②番組名 _____ 約 _____ 分		
7		WEB ニュースサイト掲載回数 _____ 回 (内訳) ①サイト名 _____ 回 ②サイト名 _____ 回		
8	自団体が主催 する市民への 環境教育・自然 体験イベント 等について	参加人数 大人 _____ 人/回 こども _____ 人/回 (構成員以外の参加者で、運営協力者も含む) 平均参加時間 (開催時間) _____ 時間/回 年間実施回数 _____ 回	イベント・研修会・学習会等の名称 「 _____ 」	
9		参加人数 大人 _____ 人/回 こども _____ 人/回 (構成員以外の参加者で、運営協力者も含む) 平均参加時間 (開催時間) _____ 時間/回 年間実施回数 _____ 回	イベント・研修会・学習会等の名称 「 _____ 」	
10		参加人数 大人 _____ 人/回 こども _____ 人/回 (構成員以外の参加者で、運営協力者も含む) 平均参加時間 (開催時間) _____ 時間/回 年間実施回数 _____ 回	イベント・研修会・学習会等の名称 「 _____ 」	
11	今年度、長期に わたり手入れ をしていなか ったと考えら れる里山林を整 備した面積	計 _____ ha 広葉樹林 _____ ha 針葉樹林 _____ ha 竹林 _____ ha		